

第27号

会報こほく

滋賀県レイカディア大学同窓会湖北支部 発行責任者 大塚忠夫 編集責任者 中嶋 清

秋季支部GG大会

草野川グラウンドゴルフ場



快晴の秋晴れの下、十月十二日に草野川河川敷グラウンドゴルフ場において湖北支部秋季グラウンドゴルフ大会が三十七名の参加者で開催されました。伊吹山の頂が七尾山越しに眺められ絶好のコンディションの中で、グラウンドゴルフに楽しんでいただきました。

当グラウンドは芝コースと土コースがあり変化に富み大変面白いコースで、ホールインワンに顔をほころばせたり、歓喜の音がグラウンドに響き渡りました。楽しくプレーをして和気あいあいの内に終了されました。会員のご協力ありがとうございました。

成績優秀者

優位	準優位	三位	四位	五位
宮口 敏夫	松岡 純次	森 茂樹	吉永 清夫	鐘居 忠男
62	62	65	65	66



四支部グラウンドゴルフ大会

成績優秀者

男子	優位	準優位	三位	四位	五位
小川 勇 (湖東)	辻 清次 (八幡)	木村 傳平 (湖東)	大原 勢一郎 (中部)	平井 治雄 (八幡)	
女子	優位	準優位	三位	四位	五位
林 啓子 (八幡)	田井 中幸子 (中部)	安居 邦子 (湖北)	寺尾 美智 (八幡)	林 芳枝 (中部)	

研修部

十月二十七日に計画いたしました、日帰り研修旅行は参加申込者が少なく急遽中止いたしました。参加申し込みをされました方には大変ご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

生年月日調査のお礼

先に地区幹事様を通じて生年月日の調査をさせて頂いていただきましたところご協力をいただきました。まだ未提出の地区幹事様は大至急調査していただき報告願います。



四支部グラウンドゴルフ大会は十月十九日に日野川グラウンドゴルフ場で開催されました。開催場所が遠いこともあって湖北支部から十四名の方の参加となりました。

朝から澄みきつた青空の下、少し動けば汗ばむほどの陽気となり、一ラウンド十八ホールの芝生で休むことなくプレーとなりました。

グラウンドはバンカーあり、山ありの起伏のある興味深い作りで更にホールの周りはサークル状に芝が刈り残され、湖北の精鋭も勝手が違うのか力を出し切れ中多用途です。そんな中安居邦子さんが見事三位に入賞されました。

プレー中は他支部の方とも情報交換をする等和気あいなの中終える事が出来ました。

第九回 地域活動事例発表会

近江八幡ひまわり館

第9回地域活動事例発表会は十一月十四日に近江八幡のひまわり館で開催されました。

当日は約百名の参加者が見守る中で各支部の代表が地域活動の事例発表をされました。

来賓の近江八幡市の富谷市長様から「シルバー世代の皆さん方が地域活動のリーダーとして活躍しておられる事に深甚なる敬意を払うと共に今後も地域活動に貢献して頂く事を大いに期待しています」との言葉がありました。



レイ大33期生5人組
の奮闘ぶり

後継者を探して地域の
特産物を復活

社会貢献



各支部の発表テーマは次の通りです。

シニアパワー全開
大宝神社のサンヤレ踊り復興に貢献

小さなバラ園作りとボランティア体験

平核無柿の栽培を通じて社会貢献

高島支所の剪定作業卒業後も楽しくボランティア

地域の高齢者サロンに画像で歌と話題を届ける

市民体験陶芸口座の活動経緯と継続

私の地域活動

と、多岐に亘り発表がなされました。



レイカディア大学の建学の目的が高齢者の生きがい作りと地域貢献活動への参画であります。

レイカディア大学OB会の皆さんが地域活動にさらに活躍されることと未だ活動をされていない会員の皆様方は先輩を見習って地域活動に参加され地域の活性化に励んでください。



湖北支部の代表として近藤光博さん他4名の方が「平核無柿の栽培を通じて社会貢献」をテーマに米原市清水水地区で栽培放棄地になりつつあった柿農場を地主から引き受けて教えを得ながら栽培を続け地域の柿栽培農家の減少の歯止めもされた活動について発表をされ参加者が大変感動を受け、多くの意見や質問が出て大好評でした、試食の柿も用意され参加者は興味深かったです。



地域活動調査のお礼

先に地区幹事様を通じて地域活動についての調査をさせていただきました折には会員の皆様方積極的にご協力を賜りました。湖北支部の取り纏めも終え本部へ提出させていただきました。

多数の会員の皆様方が湖北地区で各種のボランティア活動などに参加される実態がわかり行政にもレイカディア大学OB会会員のアピールが出来ることと後輩にも継続していただくようになります。

大塚支部長

ゆめホールの剪定作業

レイ大ガンバ剪定奉仕隊

園芸32期 草川洗治

ある友人の話です。ボランティア活動をしようと仲間の意見が纏り、近くの施設へボランティアで剪定作業をさせてもらえるか尋ねたところ、「継続して将来的にもやっていただけるならば嬉しいが、一、二回の思い付きならば困る。なぜならば、毎年年間行事予算取りを計画してやっているのが、ややこしくなったり、やり直しになったりしては困るから」との事でした。

私たちもレイ大在学中に、発表会に向けての課題を探していた時があり、将来とも継続してやっていくとの心構えもなく、その場しのぎの、目の前の課題をこなす事しか考えていませんでした。

そんな時先輩の方々が「米原地域福祉センターゆめホール」の生け垣の剪定作業をしておられる、とのことより、その仲間に入れていただき在学中の発表会をクリアする事が出来ました。そんなご縁で卒業後も毎年、一回ではあります選定作業のボランティア活動が続いています。

二十一期の方から始まったと聞いておりますので八年間続いていくこととなります。



作業内容は敷地周囲の生け垣の剪定作業です。当初四ヶ所でしたが、現在は中山道沿いと裏手の生け垣、玄関前の植木との三か所を手分けして作業しております。



近年は三十二期三十三期の米原市内の方々を中心に、長浜の方も加わり数名で実施しております。同じ市内に住まいをしているとはいえ、顔を合わすことも少なく、年一回の作業をやるうと声を上げてくれる人がなかなかいない状況です。しかし継続して頑張らなくてはなりません。

今年十月十四日に八名で実施しました。久しぶりにお会いする方もあり、休憩時間の雑談は、親睦になっており来年も頑張ろうと声かけあつて終了しました。今後は新しい方も参加していただき継続していきたいと思っています。



よし笛アンサンブル・マイレिका 平成26年1月23

よし笛を通じてボランティア活動

三十二期 健康レクレーション科 吉永 和子

「よしぶえアンサンブル・マイレिका」は平成二十二年十二月に産声を上げました。レイカディア大学米原校の課外活動の一つとして、三十一期・三十二期生の有志での誕生でした。それから毎年新しい仲間を迎え現在三十七名で活動しています。

活動は、三十二期卒の北村哲夫先生のご指導の下、月2回米原公民館で連取をしています。ほとんどの部員がよしぶえは「〇〇の手習い」で「いろは」の「い」からの練習でしたが、今は「米原公民館まつり」レイ大の「学園祭」「長浜音楽祭」に出演できるまでになりました。

他に大きな活動として、ボランティア活動があります。練習が終わると、老人施設や介護施設へ演奏に行きます。施設では季節に合った曲を演奏し、又歌や手遊びを交えて利用者さんと楽しい時間を過ごします。

「ありがとう」「また来てね」の言葉に、私たちも励まされ元気をもらって「一体に気を付けて、お元気でね」と施設を後にするとき、「よしぶえ」を習

って良かった、と満足感いっぱい帰路につきます。

私たちは、よし笛を通じて、「各学科」や「年度」を越えて仲間同士の交流が出来、また地域に貢献できることの大きな喜びを感じながら、練習に励んでいます。

ボランティアは、活動を通じて、原器と活力をいっぱい頂けるもの。：一歩でも成長できることを願っています。



レイ大休止問題を振り返り

20期 生活学科 戸の洞 貞夫

平成十八年の秋、次年度予算の編成に当たり、縮減策の一環として次年度以降当分の間、レイカディア大学を「休止」学生募集も凍結する旨当時の嘉田知事より発表された。骨子はレイ大の運営に県費から七千万余の金額が助成されているが、緊縮財政を維持する為には補助金の捻出は難しいというのが知事の真意であったようだ。関係者にとつては突然の発言に戸惑い、将に「寝耳に水」の驚きであった。

この知事の発言を放置すれば恒久的な「休止」、すなわち「廃校」にも繋がりがかねない危惧があり、同窓会は、事の重大性に鑑み早急に「休止問題の白紙撤回と、県費助成の現状維持」を決議し、陳情書を携えて県庁に数度趣き知事や県議会議長に面会し直訴した経緯がある。勿論、在校生や卒業生もあらゆる手段で直接・間接的に「撤回・継続」への切ない願いを込めて、活発な活動が行われたことは言うまでもない。

他方、レイカディア大学の運営を委託されている県社会福祉協議会でも問題を重視し、学識経験者、行政代表、県内の各諸団体長、同窓会、学生代表と直近の卒業生代表等約25名の委員で構成する「レイ大再編検討委員会」が組織された。

主な議題は

- ① レイカディア大学の継続
- ② 学科・人員の見直し
- ③ 授業料の見直し

などの柱を中心議題として、平成十九年三月に最終の意見集約結果を県へ提示した。

再編検討案には、大学運営諸経費が大幅に削減されることにより、一般教養科目や選択学科の講師料が極端に減額され、招聘も難しく困難となる、又関係職員の人員削減により運営に支障が出るなど悪条件が重なり、学生の学習意欲が失われる懸念が明白であった。それらの打開策として、レイ大を卒業した諸先輩の中で学科講師の補助や手助けを任意で行ってくれる人材があれば、運営や講義、実習などのアシスタントとして強力な「サポート」態勢を整えられるとの結論に達し、県へ提示の文中に盛り込まれた。

その後、県サイドでは大学関係者挙げての陳情や、一般県民の声、県議会での働きなど味方し、知事も諸般の事情などを熟慮され、ようやく翻意して頂く事が出来、その結果、平成19年5月に条件付きではあったが「継続」の朗報がもたらされたことは周知のとおりである。

なお、余談ではあるが、前述の対策委員会の席上で、ある委員が突然に「応募者が減少している米原校は、この際廃校にして草津校へ集約してはどうか？」との意見が出され、腸が煮えくり返るような思いをした。25名の委員中、米原校関係の委員は私と米原校学生代表の2名のみである。雰囲気がちやうに向かないようにとの思いが募り「県の施策は南高北低と言われている。門戸が開かれているレイ大までもがその轍を踏むことは、県中・北部住民の生涯学習の意欲を失う無謀な意見であり、撤回していただきたい」と猛烈に抗議した。米原校廃止の意見は否決された。

「山・鉾・屋台行事」ユネスコ登録へ

長浜曳山祭りがユネスコの無形文化遺産に

日本の伝統的な祝祭行事「山・鉾・屋台行事」三十三件が一括でユネスコの無形文化遺産に登録される見通しとなった。

権力者ではなく市民が作り上げた文化が世界で高く評価されたことであり、長浜の祭りが日本の・世界の祭りとして認められたことは誇りです。

山・鉾・屋台行事は、社会、経済、美術工芸などを総合した地域の文化力の表現だ。祭りそのものに無形文化財としての価値があるだけでなく、山や鉾には職人や芸術家の技術、技能がぎぎ込まれており、そうした観点でも大きな価値を持つ。と京都学園大学の植木教授は話している。

長浜ではかねてより「町衆」の力で豊臣秀吉が町を開いて以来まちづくりを進めて来た。

これを記念して曳山博物館広場で「秋の長浜曳山祭り特別公開」が行われ多くの観光客でにぎわいました。

会員の皆様も多数関与されています。



訃報

謹んで哀悼の意を表し
心からご冥福を
お祈り申し上げます

16A6 期陶芸学科 北村春江様
1 期園芸学科 眞壁 清様

訃報の知らせは

大塚まで

電話

〇七四九一六二一五四四〇